



人と人のまんなかに。

Mitsui V-Net ニュースレター

vol.66

発行

2024年

4月1日

Newsletter

三井ボランティアネットワーク事業団 Mitsui Volunteer Network Center



新年度のご挨拶

三井ボランティアネットワーク事業団 理事長 浜本 渉

日頃は、三井ボランティアネットワーク事業団の活動に、ご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。今年度のニュースレターをお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本事業団は、高齢化社会の到来を見据え、高齢者が積極的に社会活動に参加し、豊かで健康な生き甲斐を感じられる場を提供することを目的として、三井グループ各社のご尽力により1996年に設立されました。



本年で28年目を迎えた現在、三井グループ企業20社の運営会員会社によるご支援ご協力のもと、三井グループ企業出身のシニア層を中心に、一般の方々にも多数ご登録いただき、ボランティア登録会員数は、約1500名(2024年1月)となっています。

具体的な活動分野は、①国際交流、②環境保全、③医療・福祉、④文化・教育、⑤スポーツなど多岐にわたります。新型コロナウイルス感染症で中止、停滞を余儀なくされていたボランティア活動も、ようやく前年度から社会や経済の活性化とともに、各分野で数多く再開され活発化してまいりました。

国際交流はメインである会員と留学生の対一交流において、対面による交流を再開いたしました。会員の方々による留学生を交えた各大学での交流イベントも、東京大学柏キャンパス、神戸大学での書道体験会、横浜国立大学の和服正装体験会、駒澤大学の茶道体験会など、多くが制限のない形で開催され、本来の姿での交流に戻ってまいりました。

また、留学生に日本の古典芸能を知っていただくために行っている、能・狂言、歌舞伎、文楽の鑑賞会も再開し、多くの留学生が参加されました。

福祉では、児童養護施設エリザベス・サンダース・ホーム(神奈川県大磯町)において、園内清掃の他、会員の方々と子ども達の交流イベントである、木工教室や竹とんぼ教室、お絵描き会、みんなで一緒にコンサート、などを4年ぶりに実施し、

子ども達と笑顔あふれる交流を再開いたしました。

さらに、日本チャリティー協会からの支援要請に基づくボランティア活動も再開し、全日本力士選手権などのイベント支援に、会員の方々のご支援ご協力をいただきました。

文化・教育では、旧三井家下鴨別邸(京都府)、司馬遼太郎記念館・キッズプラザ大阪(大阪府)などの文化施設が本格的に稼働し、受付やご案内などに多くの会員の方々が活動を再開されています。

環境保全は、広島平和記念公園(広島県)の毎月清掃を継続するとともに、須磨海岸(兵庫県)・二色の浜(大阪府)、鎌倉由比ガ浜(神奈川県)などの清掃も再開いたしました。スポーツもマラソン大会の給水や視覚障がい者ランニング伴走支援などを積極的に行っております。

このように各分野における活動の活発化にともない、コロナ禍で大きく減少した会員の皆様のボランティア活動への参加も徐々に回復してまいりました。本事業団の活動先である団体などからも活動再開に、感謝とともに高い評価をいただいております。今年度は、さらにコロナ禍前の水準に戻すべく、会員の皆様の活動を積極的にサポートしていく所存です。

さて、本事業団がこうしてコロナ禍を経ても活動を続けてきているのも、会員の皆様のご活躍によるところですが、一方で会員の高齢化も進んでおります。そのため今年度は特に、新規ボランティア登録会員の拡大に力を入れてまいります。ニュースレター、ホームページの活用や運営会員会社をはじめ三井グループ各社への広報活動を通して、本事業団の認知度アップを図るとともに、ボランティア活動の選択肢を広げるため、既の実施しているパラスポーツのボランティアなど、新たな活動への取組を運営会員会社の運営委員の皆様や会員の皆様と議論を深め検討してまいります。

また、本事業団の運営会員会社の拡大につきましても、関係各社への働きかけを継続してまいります。

本事業団といたしましては、今後ともボランティア活動を通じて三井グループが実践する社会貢献活動の一翼を担えるよう積極的に活動してまいります。引続き三井グループ各社の皆様、運営会員会社、会員の皆様のご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

会員募集

三井ボランティアネットワーク事業団は、新規会員を募集しております。

- ▶ 三井ボランティアネットワーク事業団ホームページより、お申し込みください。
- ▶ 詳しくは最終ページをご覧ください。

会費は無料です

神奈川県「城ヶ島散策」報告

横浜国大会 藤田 芳規



馬の背洞門にて

2023年12月9日(土)「城ヶ島散策」の行事は、快晴で気温も高め、絶好の散策日和に恵まれました。参加者は留学生11人(他に3歳半の幼児)と会員5人。

9時45分に城ヶ島大橋バス停で下車して橋にかかると、三崎港のはるか先に富士山が見えます。かすんでいますが雪の富士はいつ見ても素晴らしい眺めです。小舟が行き来する眼下の海もきれいです。

城ヶ島公園の展望台からは富士山の他、西に伊豆半島の天城山、南に伊豆大島、東には房総半島が一望されます。展望台の脇から崖の急坂を下ると白波が岩に砕ける磯に出ます。大きな岩や岩の間から見下ろす波打ち際の様子にみんな興味をそそられたようです。尖がり屋根の安房崎灯台の傍からも磯に下れます。頭上には今日もトビがたくさん舞っています。トビの襲来を避けて木立の中のベンチで昼食です。



尖がり屋根の安房崎灯台にて

食後は馬の背洞門に向かいます。馬の背洞門は相変わらず人気の被写体です。城ヶ島灯台への浜沿いは歩きにくい道ですが、広々とした風景がよいところです。城ヶ島公園では結婚式用写真の前撮りをしていたカップルを3組も見かけました。みんなで拍手して祝福しました。

予定より少し遅れて14時28分のバスで島を後にしました。今回の城ヶ島散策に参加してくれた留学生の呉孟珈さんは、「富士山を見て元気もらった」「城ヶ島公園は故郷の浜辺公園に似ていて親しみを覚えた」「岩にぶつかってできる白波がきれいだった」「みんな景色に満足して一日充実した日を過ごせた」等多くの感想を聞かせてくれました。

短い留学期間ではありますが、勉学の他、日本の景色を見たり文化に触れたりしてもらい、思い出に残る留学生生活を過ごしてほしいと願っています。

千葉大学留学生社会見学会 バスツアー感想

千葉大会 田嶋 秋雄 (三井住友建設 OB)

千葉大会恒例の社会見学会が2023年11月24日(金)開催されました。

今回は「海」を通じ、もっと東京・日本を知ろう!をキャッチフレーズに日本最大の日本郵船東京コンテナターミナルの見学および東京港視察船「東京みなと丸」に乗船して東京港内を周遊し、港から東京港内にある多くの施設を見ながらガイドの説明を聞いて東京・日本を知ってもらう企画で、参加者は留学生28名を含む総勢35名です。

千葉大学を貸切バスに乗って出発、最初の見学場所であるコンテナターミナルに到着。早速管理棟会議室にて約20分のビデオによる概要説明を受けた後、担当者の案内でコンテナ積載用トレーラーの搬出入ゲートを見学。引き続き屋上へ出て全景を見ながら説明を受けました。

そこには広大な敷地に整然と留置されている沢山のコンテナ、コンテナを積下ろしする2種類の大型クレーンが26基そしてバースに接岸している巨大なコンテナ運搬船が見られました。よく見ると沢山のトレーラーが次から次へと休みなくクレーンにてコンテナを積下ろして動いている光景が見られ、オペレーター以外ヤードにもバースにも人影は見当たりません。

留学生からは多くの質問があり担当者から答えて頂きました。



竹芝ふ頭 船から下船

午後からは「東京みなと丸」に乗船、ガイドの説明を受けながら東京港で最も古い日の出ふ頭、そして芝浦ふ頭を右手に通過。東京港の中心部にあるレインボーブリッジを真下から眺めました。

その後、北海道を結ぶ定期航路のふ頭や四国・九州を結ぶフェリーのふ頭、その他コンテナや自動車を含む資機材等を取り扱っている多くの巨大なふ頭を眺めました。

その中であって東京のごみと建設発生土で埋め立てられている海の森や東京国際クルーズターミナル、別名恐竜橋とも呼ばれている東京ゲートブリッジを眺めて参加者全員クルーズを楽しみました。



東京コンテナターミナルにて

鎌倉散策実施報告

駒澤大学部会 白井 信雄 (三井住友銀行 OB)

駒澤大学部会では、古都鎌倉を歩いて日本の歴史と文化を楽しむ恒例のイベントを2023年10月29日(土)に実施しました。コロナ明けの9月に来日した留学生にとっては最初のイベントとなり留学生9名、会員6名、合計15名(昨年比8名増)の参加となりました。

今年は、鎌倉駅前から市役所通りを經由して高德院(大仏)、長谷寺、御霊神社を見学した後、直接長谷駅から江ノ電で鎌倉に戻り段蔓から鶴岡八幡宮に向かい最後は「小町通り」を楽しむという1日コースです。

『鎌倉散策に参加して』

キム ソジョン (駒澤大学、韓国)

鎌倉は景色の美しい観光地だけだと思っていましたが、見学後、鎌倉は日本の歴史的、文化的に重要なところだと思いました。

「鎌倉大仏」と呼ばれている高德院の青銅大仏を見ました。大仏の高さは11.3mですが、柔らかい印象かつ優雅で偉業的な雰囲気を出していました。宗教的な敬虔さを感じ、日本仏教の歴史と文化を学ぶ良い機会でした。特に大仏の内部が空いていて、直接中に入って内側から確認することができた点が印象に残りました。

「長谷寺」では、木造観音像に観音菩薩の微笑みと優雅さが鮮明に表現されていて、私は芸術作品のような繊細さに驚きました。長谷寺に行った時、階段をたくさん上り大変でしたが、天気が良く景色も非常に美しかったので、高いところまで登った甲斐があったと思いました。

また、「鶴岡八幡宮」に行くために若宮大路から綺麗な参道を歩いたのは、大変気持ちが良かったです。参道の両側に道路があり、木々が左右対称で直線に道が伸びていて心が安らかになると感じました。桜並木なので春ならきっととてもきれいだらうなと思いました。

「小町通り」は韓国人の目で見たら、両側に日本風の可愛い店が並んでいて見物する楽しさがありました。

機会があれば私の周りの人たちと一緒に鎌倉にまた行きたいです。そこに行って鎌倉の美しさを紹介してあげたいです。



高德院大仏前にて

英語落語はおもしろい

東大柏部会 宮崎 泰雄 (三井住友銀行 OB)



落語「初音の鼓」を演じる リリーさん

2023年11月30日(木)に、東大柏キャンパス図書館メディアホールで、コロナ規制がない中で英語落語鑑賞会が行われ、出演者も観客も、大いに楽しむことができました。

中学程度の英語力があれば、落語を楽しめるとのキャッチフレーズもあり、子ども連れのファミリーが何組かおり、印象的でした。東大柏キャンパスは、つくばエクスプレスの柏の葉キャンパス駅にあります。駅名のごとく、大学、高校そして、ベンチャー企業など若い人が集まる、新しい、多様な文化がある街です。

今回は、日本文化をさらに知ってもらうためか、「寄席踊り」や「南京玉すだれ」もプログラムにあり、言葉だけでなく、アクションを通じて日本文化にも接することができました。

途中休憩では、東大さんからの飲み物やスナックの提供、そして、東大柏部会のK女子の「みかん」の差し入れもあり、きものすがたの演者も入っての留学生さんとの交流ができました。やはり、リアルな交流は、コミュニケーションの質量で違います。

久しぶりの盛り上がったイベントができたのは、「かい枝東京英語落語会」の出演者の技能と心意気、東大KIOと柏図書館のご支援、そして、広く広報につとめた方、当日の準備をサポートした方々の支援のたまものです。アンケートでも高い評価を頂いており、その証左であります。



「寄席踊り」を演じる かーこさん



エリザベス・サンダース・ホーム お絵描き会

湘南倶楽部 安本 喜英 (日本製鋼所 現役)

2023年4月に三井V-Net湘南倶楽部に入会、神奈川県大磯町にある児童養護施設「エリザベス・サンダース・ホーム」での清掃や子供たちとの木工教室などのボランティア活動に参加しました。

この施設の子供たちと会うことで、20年前自宅の庭先で近所の小学一年生と一緒に絵を描いて、その子供の絵の感性に驚かされたことを思い出しました。

天性のセンスを持ち合わせる子供には、何も教えることなく、自由気ままに絵を描かせてみたい、そしてそのセンスを褒めてあげたいという思いから、この子供たちと絵描きをすることができたら楽しい時間ができるのではと三井V-Net本部事務局に提案し、子供たちとお絵描き会を2023年11月4日(土)に開催することが実現しました。

当日のお絵描き会には幼稚園児、小学生を中心に25名の子供たちが集まってくれました。葉書への絵描きをしたことがない子供が多数のため、まずは最初に身近な庭山にあった笹の葉等のサンプルを持参し、絵のイロハから描いてみようとはじめました。

葉書大の紙への初めての絵描きは、子供たちにとっては初体験ながら、なんとか1枚目を描きました。それぞれの絵の表現を褒めて、2枚目を描きはじめると、みんな紙からはみ出す勢いで、好きなものを集中し描き始めたら、大人の感性をはるかに超えた、その個性的色使い、組み合わせセンスは爆発し、葉書大のキャンパスに奇想天外な自由で誰にもまねできない素晴らしい大作品が描きあがりました。各自が描いた絵の中で、気に入った1枚を額縁に入れて並べ、子供たち一人一人の作品を楽しく紹介するとともに、みんなで絵の賞賛と満場一致の拍手の応援で終わりました。

子供たちは大喜び、みんなが皆、一体となり大大芸術家になりました。これぞ、本当のちびっこ画伯が誕生しました。散会前には子供たちに「2回目のお絵描き会を希望する人、手を挙げて」と声をかけましたら、ほぼ全部の子供たちが手を精一杯高く挙げてくれました。

子供たちの絵の感性に20数年ぶり感動した再会でした。ありがとうございました。



はがき大の額縁に収めた子供たちの作品

関西支部

神戸大学留学生との交流と 2023年度ホームカミングデイに参加して

妹尾 佳子 (東芝 現役)



神戸大学ホームカミングデイでの三井V-Netのブース

2023年秋に初めて三井V-Netのボランティア活動に参加させて頂き、スリランカ留学生とのボランティア交流を紹介され、第1回目のマッチングの機会として、神戸大学主催のホームカミングデイに参加いたしました。

また、当日は三井V-Netのブースにて11月17日に行われる留学生交流会のご案内を行いました。イベントにも参加させて頂き留学生と一緒にクイズに臨んだり、楽しい時間を過ごせました。

マッチングでは大学生の娘も一緒に参加し、自己紹介やお互いどういった交流を望んでいるかなどを話しました。私は英語が得意ではないのでコミュニケーションに苦労するのではないかと危惧致しましたが、とても流ちょうに日本語を話せる方で本当に驚き、取り越し苦労に終わりました。

また、今回友人も一人紹介させて頂き、その友人もボランティアに参加することとなり、アメリカからの留学生とマッチングを行いました。お互いの家が徒歩数分で頻繁に行き来をしておりますが、偶然、留学生同士も同じ寮ということがわかり、これから家族ぐるみで交流するのも楽しいのではないかと考えています。

初めてのボランティアですので試行錯誤を繰り返しながら、彼女にとって日本が素晴らしい思い出になる一助になるように、また、私自身も見聞を広げられるよう、そして、何よりお互い楽しく交流できればと思っています。



右から二人目が筆者

神戸大学で4年ぶりの書道教室

太田 正隆 (登録会員)

神戸市灘区の神戸大学グローバル教育センターで2023年7月10日(月)、コロナ禍を挟んで4年ぶりに書道(習字)教室を開きました。参加したのは夏季特別プログラムで留学中の学生7人のほかボランティアスタッフなど10人。



うちわに「克」を書き入れる留学生

講師は毎日書道会会員の北岡瑞桐先生と筒井忍先生で、大学の授業と同じ90分で日本文化の一つ、書道のイロハを体験しました。

留学生は韓国から6人とロシアからの1人、筆、硯、墨、半紙など書道の道具を手にするのはロシアからの留学生は初めて、韓国の留学生もわずかに筆を持ったことがある程度で、一行を書く、一点を書く、マルを書くという基礎から、起筆(スタート)、はね(ジャンプ)、終筆(エンディング)などの筆遣いを巡回指導を受けながら体験しました。



集合写真

ボランティアは道具の使い方の説明や、北岡先生の「模倣ではなく個性を大切に」という考えを英語やハングルを交え留学生に伝えるとともに、「そこは力を入れて」「バランスや空白が大事」「上手になりました」と拍手や誉め言葉を交えてバックアップ。留学生は応用として北岡先生が出題した「克」の文字をそれぞれ、うちわに書き入れて、笑顔でレッスンを終えました。

京大病院図書ボランティア「ほっこり」活動再開

宇山 房男 (BIPROGY OB)

コロナ禍の3年間は外来、病棟、図書コーナーも含め、全てのボランティア活動が休止となり、図書コーナー「ほっこり」も閉鎖されました。また入院患者に対する面会の禁止に伴い、ボランティア控室に出入りすることもできませんでした。2023年5月に新型コロナウイルスの5類移行で病院内の規制も徐々に緩和され、患者さんからの要望もあって7月から図書コーナー「ほっこり」をオープンすることになり、6月からボランティアもその準備のため活動を開始することになりました。

3年間無人でしたので、まず配架されている約7,000冊の現品確認を行い、書架のレイアウト変更もありましたので、書籍の書架間の移動などを行い、7月より図書コーナー「ほっこり」をオープンしました。「ほっこり」の蔵書は全て寄贈本で賄われていて、閉鎖していた3年間は寄贈本の受け付けを停止していたのですが、受け付けを再開すると、ありがたいことに毎日のように寄贈本を持ってこられて、オープン後は寄贈本の登録作業、配架スペースの確保のための書籍の移動などの作業に追われています。書架のレイアウト変更に伴い幼児のためのスペースも増えましたので、多くの方々が来られるのを楽しみにしています。



図書コーナー「ほっこり」での筆者

三井 V-Net ビーチクリーンアップに参加

吉原 理恵 (登録会員)

2023年10月1日(日)大阪は強い雨が降る朝でしたが須磨海岸に到着する頃にはすっかり止み、時折日差しを感じる中ビーチクリーンアップに参加させていただきました。最寄りのJR須磨駅から海が望めるとは思いもよらず、駅に着くなりその風景に気持ちが高揚しました。

初めての参加で不安な気持ちもあったのですが、三井V-Net 関西支部のみなさんが温かく出迎えてくださり、和やかな雰囲気にもホッとしました。

参加するまでは、海に遊びに来た人たちの、空き缶や放置されたごみを想像していたのですが、実際は海から流れついたごみが多く、その中にあるプラスチックごみの量に驚きました。

プラスチック片は色があせながらも形をとどめ、袋のようなものは、日差しや海水によって拾うとパラパラと崩れてしまいそうです。こうしてマイクロプラスチックになっていくのだな、というごみを目にしました。自然で生まれたものでないから、いつまでも残ってしまうのもよくわかります。1時間も



中央 筆者



活動するとごみ袋が一杯になりました。食物連鎖によって、このごみが回りまわって人の口に入ることになることを考えさせられた1時間でした。

とはいえ、須磨という街の持つ、観光地のような、でもどこかのどかな街の雰囲気も楽しみ、とてもいい時間を過ごせた思いで帰路についた初秋の1日でした。



須磨海岸にて集合写真

2023 二色の浜ビーチクリーンアップ

徳永 千鶴 (住友生命 現役)

キンモクセイ香る秋晴れの日、わたしは初めてビーチクリーンアップのボランティアに参加しました。わたしたち住友生命保険東大阪支社からは家族も参加したため、子供多数での参加となりました。

さぞかし二色の浜にたくさんごみが堆積しているに違いないと勝手に思い込んでいましたが、目の前に広がる二色の浜には目立ったごみは見当たりません。正直、拍子抜けしました。



筆者

「自然ごみは拾わない、人工物のごみは拾うこと」と最初に説明を受けました。さっそくごみを拾っていきました。あれ？これは貝の破片？それともプラスチックの破片？これは海藻の乾燥したもの？ナイロンの袋の切れ端？自然ごみなのか人工物のごみなのかわかりづらく分別しにくいものがありました。「これはごみかな？」といいながら、小さな子供が小さな手でごみを拾っている姿をみて大人として申し訳ない気持ちになりました。

そして家に帰ってから、自分には何ができるのかと考えました。まずは物を買うときはその物の最後まで想像して買うことにしようと思いました。外出する時にペットボトルのお茶は買わない、水筒を持っていく。できることから確実に実行しよう。そう、生活を振り返ることができたのはボランティアに参加して心に感じるがあったからです。来年も参加して、自分の生活を振り返りたいと思いました。



二色の浜海岸にて集合写真

神戸マラソン2023 団体ボランティアに参加して

高倉 宏知 (三井物産 現役)

2023年11月19日(日)天候に恵まれ、三井V-Netの会員16名が須磨浦公園に集合しました。

須磨浦公園前に設置された10.8km地点の第4給水所が担当でした。最初の給水ポイントでもあり、疲れ始めた身体にエネルギー充電を行って頂くエリアで、われわれはスポーツドリンク担当となりました。

テーブルやコップ、飲料などの備品を選手に取りやすいように、また、継続して供給できるようにと配置を考えながら、ランナーの到着に備えました。温かい日差しを浴びながらも、時の経過と共に内面からも熱い気持ちが込み上げてきました。



筆者

9時30分頃、国内外のトップランナーが猛スピードで通過、しばらくすると集団が途切れることなく続き、声援しながらも「水分が不足してはならない」と助け合いながら給水に励みました。疲れているランナーから「ありがとう!」「助かる」などの言葉を頂き、感動と癒しを頂きました。また、須磨浦公園内では須磨太鼓のグループが開始から最後まで途切れることなく演奏され、ランナーやボランティアを鼓舞していました。

今年を象徴する野球関連のコスチュームをされた方が多かったように感じましたが、走りながらごみ拾いをされる方もおられました。懸命なランナーの近くで応援のキャッチボールができるマラソンボランティアにさらに魅了されました。



給水所で集合写真

中国支部

オペラ公演「マダムバタフライ(蝶々夫人)」にボランティア参加

田財 康平 (東レ 現役)



右から2番目が筆者

2023年12月2～3日にかけてJMSアステールプラザで公演された広島オペラアンサンブル主催のオペラ公演「マダムバタフライ(蝶々夫人)」(※注)に、三井V-Netからボランティアに参加しました。

活動内容としては、入場時お渡しするパンフレットの準備、入場手続きのお手伝い、場内案内などをお手伝いしました。

特に初日の公演は、地元中学校の音楽の先生が、主人公の蝶々夫人を演じ、学校関係者や生徒、PTAの皆さんがたくさん応援に来場されておりました。

公演は、非常に素晴らしく、オーケストラの生演奏の迫力に感動するとともに、その生演奏に負けにくいほどの演者の歌声がホールに響き渡り、その歌声に圧倒されました。

年末恒例のこの素晴らしいオペラ公演に、これからもボランティアとして参加したいと思います。



12月3日活動の皆さん

(※注)『蝶々夫人(Madama Butterfly)』は、ジャコモ・プッチーニ(Giacomo Puccini/1858年-1924年)が作曲したオペラで明治時代の長崎が舞台となっていることもあり、日本で最も有名なオペラの一つです。

『蝶々夫人』は異国を舞台とした最初の作品です。1904年の長崎が舞台で没落藩士令嬢の「蝶々さん」と、アメリカ海軍士官ピンカートンとの恋愛の悲劇が描かれています。

天皇盃 第28回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会ボランティアに参加

江崎 憲吾 (登録会員)

第26・27回大会は広島県内で新型コロナ感染者が急激に増え「まんえん防止等重点措置」の適用を受けるなど深刻な状況であることから中止となりましたが、2023年は1月22日第28回大会が3年ぶりに開催されました。

大会コースは、7区間(48.0km)で広島平和記念公園前をスタートし旧中国電力大野研修所前を折り返し再び広島平和記念公園前に帰ってくるコースで、各県ごとのチームは、中学・高校・一般の7人で構成されています。

その大会の沿道整理ボランティアとして三井V-Net中国支部から事務局2名を含む12名が参加しました。当日11時30分に廿日市市みんなのあいプラザ(廿日市市総合福祉センター)に集合し廿日市市の担当者から沿道整理についての留意事項等の説明がありました。その後、各自指定された場所「廿日市市役所」付近へ移動し沿道にロープを張り活動体制をとりました。沿道整理の役割はランナーに安心して走ってもらうためコース上への応援者の飛び出しや横断を防いだりすることです。レース中はランナーに背を向けてのボランティア活動になりましたが、応援の方々の大声援によりランナーの皆さんの激走ぶりが伝わってきて感動しました。

今回ボランティアに参加して感じたことは、大会を裏で支えるスタッフやボランティアなどさまざまな人たちが支えあっているからこそ大会が成り立っているということです。来年も機会があれば参加したいと思っています。



前列右から3人目が筆者

はし 土師ダム湖畔のボランティア活動

中国支部事務局

広島県土師ダムは湖畔を囲む約3,000本の桜が美しく咲き乱れます。湖畔のボランティア活動は楽しさが満載です。年に2回行われる桜守プロジェクトは2023年2月26日(日)と12月3日(日)に、桜並木の手入れが行われました。桜木の間伐、集積、テングス病にかかっている枝の切除、桜木への施肥を行います。午前9時から各班リーダーの指示のもと、午後2時30分ごろまで作業が続きます。

ボランティア活動での楽しみの一つは、なめこの植苗木を持ち帰ることです。約2年後には沢山のなめこが収穫できるとのこと。二つ目は、2月の桜守プロジェクトでは、桜の花芽を持ち帰ることができます。花瓶に花芽を挿しておくと、部屋の中で桜の開花を一足早く楽しめます。

もう一つのボランティア活動は、炭焼き体験です。間伐材を材料に炭焼きを行います。2023年12月4日(月)から、「NPO法人ひろしま人と樹の会」の指導で炭の材料となるまきの準備を行いました。12月5日(火)にまきを炭焼き窯に入れはじめ、まきを半分窯に入れたところで、窯上部にクラックが発見され、作業は中断されました。窯の修理を待ち炭焼きを再開することとなりました。



なめこの収穫



事務局 便り

2023年度「三井 V-Net」名義による ダルニー奨学金への支援報告

事務局

日頃より日本郵政製書き損じはがきおよび未使用切手のご提供につきましては、会員のみならず多くの皆さまより多大なるご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

2022年中にお預かりした上記物品の換金額に前年度繰越金を合わせた総額は113,954円となり、奨学金7口をタイの中学生2名の入学から卒業までの3年分、さらに1名の単年度分として支援することができました。

現地の学生に代わりまして皆さまからの温かいお気持ちに厚く御礼申し上げます。

三井 V-Netは設立当初より公益財団法人国際センターにて展開している国際教育里親型支援「ダルニー奨学金」を介して経済的に貧しく教育を受け続けることが困難なメコン

地域の中学生の就学支援を続けております。2023年6月より物品の換金手数料が値上げとなり奨学金1口(1学年度に必要となる14,400円)を確保するためにはより多くの枚数の書き損じはがきや未使用切手の収集が必要となりました。

会員の皆さま、運営会員会社の部署単位やOB会の皆さま、そして三井 V-Netの活動を知っていただいたその他多くの皆さまにも引き続きなお一層のご協力を心よりお願い申し上げます。



2023年度に入学した新1年生。皆さまからのご支援により卒業までの学費は確保されています。

物品ご提供による支援のお願い

三井 V-Netでは右記の物品を随時収集しております。

ご提供いただいた品々は年末に一年分をとりまとめ協力団体を経て換金し、東南アジア僻地の子供たちの中学就学のほか、インド・インドネシアでの持続可能な農業や農村開発のプロジェクトへの支援金として

役立てております。

支援金のもととなる物品につきましては、ボランティア会員様に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたく、お知り合いにもぜひお声がけ願います。

ご協力を心よりお待ちいたしております。

● ご提供いただきたい物品

- 日本郵便製未使用(書き損じ含む)はがき
- 日本郵便製未使用切手(海外切手は不可)
- 使用済み切手(周囲を5mm程度残して切り取り、国内/海外 分別願います)
- プリペイドカード(未使用のみ)

● **ご提供品送付先** 三井ボランティアネットワーク
事業団の本部もしくは各支部あて
(本ページ下の住所、電話番号をご覧ください)

編集責任者：鎌川 晃一

皆様もボランティア活動に 参加しませんか



三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。

主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、三井グループ全体の社会貢献とすることを主な目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。

参加いただけるボランティア活動

詳しくは三井 V-Net ホームページをご覧ください。

入会ご希望の方もホームページ

(<https://www.mv-net.com/>)より

ご登録をお願いいたします。



三井ボランティア

検索



三井ボランティア
ネットワーク
事業団

本部(東京)
〒107-0052
東京都港区赤坂3-11-3
赤坂中川ビル3階
TEL:03-5570-2181
FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪)
〒556-0011
大阪市浪速区難波中1-12-5
難波室町ビル3階
TEL:06-4396-8680
FAX:06-4396-8681

中国支部(広島)
〒730-0017
広島市中区鉄砲町6-7
中川ビル5階
TEL:082-222-5101
FAX:082-222-5101